

水稲・麦管理のポイント

水稲・・・田植え作業が始まります。初期の分けつ確保が重要です。

麦・・・登熟初期の湿害は根の活力が低下します。排水対策が重要です。

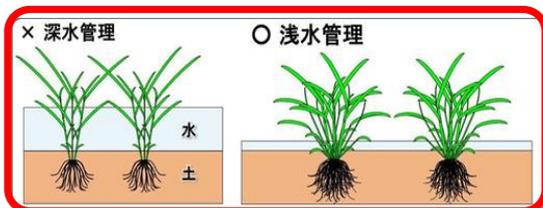
水稲

●補植作業

補植は最小限に抑えます。欠株に対する補植は、連続して5株以上欠株がある場合のみ2～3株植えます。

※補植終了後の余剰苗は、いもち病の発生源になるため、速やかに処分します。

(苗は根を上にして畦畔などに置いて枯らします。)



茎数確保は初期の水管理が重要です。植付直後は水深を5cm程度の深水管理で、活着促進と除草剤効果の安定につとめましょう。

活着後は水深2～3cmの浅水管理で地温を高め、分けつ促進をいましょう。

●水田除草剤の散布

水田除草剤の効果を最大に発揮させるためには、水管理が重要なポイントとなります。水田除草剤は水に溶けて拡散します。水田の表面に除草剤の処理層を形成し、雑草が生育し処理層に触れることで除草します。このため、補植などの水田に入る作業を全て終わってから水田除草剤を使用し、使用後は水田に入らないようにしてください。また、除草剤散布後から7日間は水田の水位を3cm～5cmに保ち、除草効果を高めるためにも水が流れないように漏水防止対策を講じることが大切です。

※ 農薬は必ず使用時期・使用方法などを確認してから散布を行うよう説明してください。

※ 環境こだわり米を栽培しているほ場では、農薬の成分数が7成分以下になるよう散布します。(参考資料として、令和6年産米水稲施肥設計書に防除体系列が掲載されています。)

※ モゲトン等の県農作物病害虫雑草防除基準に載っていない除草剤は、成分数が少なくても環境こだわり米には使用できません。

※ ワキ・表土剥離・藻類対策、秋落ち対策として『田んぼの鉄人』を今年度より採用しています。施用すると多くの藻は翌日に褐変しバラけますが、アミドロだけは注意が必要です。処理が遅いとマット状に残ってしまうため早期処理が大切です。(環境こだわり栽培のほ場でも使用できます。)

※ 同じ薬剤を数年続けて使用すると雑草が薬剤への抵抗性を持ってしまうため、3年に1度は除草剤の種類を変更し、抵抗性が出ないようにします。

※ 本田除草剤については『令和6年産米水稲施肥設計書』を参考にしてください。

【主な水田雑草】



マツバイ



セリ



ノビエ



ヒルムシロ



アゼナ



コナギ



クログワイ



オモダカ



ホタルイ



クサネム

●中期剤の本田除草剤

ザーボックス DX 粒剤



ノビエ・クログワイに高い効果が期待できます!!

摘要雑草・・・ 一年生雑草・マツバイ・ウリカワ・ホタルイ・ミズガヤツリ・オモダカ・クログワイ

散布量・・・ 1 kg/10a

使用時期・・・ 移植後 20 日～30 日まで

成分数・・・ 4 成分



クログワイに高い効果が期待できます!!

摘要雑草・・・ 一年生雑草・マツバイ・ウリカワ・ホタルイ・ミズガヤツリ・オモダカ・クログワイ

散布量・・・ 1 kg/10a

使用時期・・・ 移植後 20 日～30 日まで

成分数・・・ 3 成分



畦畔から投げ込み可能な省力型のジャンボ剤!!

摘要雑草・・・ 一年生雑草・マツバイ・ウリカワ・ホタルイ・ミズガヤツリ・オモダカ・クログワイ・セリ

散布量・・・ 25g×20個/10a

使用時期・・・ 移植後14日～収穫45日前まで

成分数・・・ 3 成分

【中・後期剤】

| | | | |
|------------------|---------------|----------|-----|
| ○クリンチャーバス ME 液剤 | 広葉雑草とノビエの同時防除 | 落水状態での使用 | 2成分 |
| ○バイスコープ 1 キロ粒剤 | 湛水所状態で使用 | 2 成分 | |
| ○サンパンチ1キロ粒剤 | 湛水状態での使用 | 4成分 | |
| ○アトトリ1キロ粒剤 | 湛水状態での使用 | 1成分 | |
| ○バサグラン液剤・バサグラン粒剤 | 落水状態での使用 | 1成分 | |
| ○クリンチャー1キロ粒剤 | 湛水状態での使用 | 1成分 | |

○小麦生育状況

県からの麦作情報については、5月中旬頃発表されます。

4月9日に管内の観察地点で生育調査を実施したところ、3月19日の調査と比べて草丈・莖数が増加し、気温の上昇とともに生育が大きく動き始めました。本年の生育は、播種時期や積雪の影響により、各地域で生育状況に差が見られるものの概ね順調な生育となっています。

しかし4月16日の雹被害により地域によっては大きな収穫減少に繋がるほ場も見受けられます。

また、今後の天候(気温)次第で登熟期～収穫期が左右されます。おおよその収穫時は6月初旬より収穫時期が行えほ場が出てくると予想しています。

○排水対策

麦は極端に湿害を嫌います。引き続き、溝さらえなどの排水対策を実施し登熟の向上が図れるように徹底してください。

麦の収穫に備え下記の事項を生産者に説明してください。

- 適期収穫が行えるよう、生育状況を踏まえた収穫作業計画を立てる。
- 収穫後4時間以内に施設搬入ができるよう、稼動計画を立てる。
- 穀粒水分30%以下で刈り取るため、収穫前に水分測定を行う。
- 収穫時は、コンバインの回転数に注意し、損傷粒の発生を未然に防ぐ。